

## 八尾市

## 八尾市制施行60周年記念事業・Y A O市民博

## はじめに

八尾市では、平成13年度を開始年とする第4期総合計画において、これからの行政運営は、市内の資源（人材・自然・技術・情報・土地・ノウハウ等）を最大限に活用して、市民活動・企業活動・行政活動を総合的にマネジメントする地域経営が必要とし、その仕組みとして地域経営システムの考え方を取り入れ、新たな時代の公民協働のまちづくりに歩みはじめました。

平成18年度には、参画と協働の新たな仕組みとして「八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例」を定め、地方自治の本旨に基づき、市民が主体となって地域活動を行い、その活動を通じて蓄積される地域力を活かしたまちづくりをより一層進めているところです。

また、市民活動団体の情報交流の拠点として市民

活動支援ネットワークセンターを開設するなど、地域力をより高めるための支援を行っています。

本稿では、市制施行60周年を契機に市民活動をされている方と本市とのパートナーシップ事業として、「八尾市制施行60周年記念事業・Y A O市民博」を事例として、本市が進める市民が主体となった協働のまちづくりを紹介します。

## 市制施行60周年について

平成20年は、本市制施行60周年の節目にあたり、これまでの60年のあゆみの上に立ち、市民とともにあゆみ、ともに進めるまちづくりへの新たなスタートとしたいと考えています。コンセプトは「地域力で未来を拓くまち」です。

地域力に焦点をあわせ、「協働」によるまちづくり



に繋げていきたいと考え、市民、行政、NPO等の多様な主体が、本市の持つ地域資源、すなわち人材や自然、歴史、文化等々に着目し、活用しながら記念事業を実施し、それを契機に、地域力を培い、発見し、強化することをめざしています。

## 市民実施事業としての「YAO市民博」について

今回、市民実施事業として市民が企画立案したものが「YAO市民博」です。

実施主体は、先述した平成16年10月に市民活動団体のネットワークづくりと団体への中間支援、育成などを目的として開設された「八尾市市民活動支援ネットワークセンター『つどい』」（以下「つどい」）です。「つどい」は、市民の柔軟な発想を市民活動のネットワークづくりに活かしてもらうため、地元のNPO法人「やお市民活動ネットワーク」に運営を委託し、市民活動団体等への事務局機能の提供のほか、交流会やNPO講座などを開催しています。

今回、市民実施事業を検討する際、「つどい」が主催する「市民活動広がり交流会」で「市制施行60周年について考えよう」というテーマで、多くの市民のみなさんが自由に参加して活発な意見交換を行い、「YAO市民博」が市民と市との協働事業として実現することができました。

YAO市民博の特徴は、年間を通じて地域や様々な分野の市民活動団体のイベントなどをそれぞれ企画し、コラボレーションされたもので、3月のプロログ期間から始まり、市制施行60周年記念式典に



合わせたオープニングイベントなど、本年12月までに概ね100団体の参加の下、計24回の催しが、毎月市内各所で開催されます。恒例となった「やお市民活動まつり」は市内の商店街との協働事業として4年目を迎え、46団体が参加し、5会場でちびっこのダンスをはじめ、高齢の方から子どもたちへの昔遊びの伝承、障がいを持つ人からメッセージを伝える展示発表や、中国の人のパレードまで、性別、年齢を超えた国際色豊かな催しとなりました。

これらは、市民（団体）が主体的に企画立案するイベントであり、経費の一部を市予算から助成します。これは市民の創意、自主性に富んだ記念事業を支援するものであり、実施にあたって、市民の創意、自主性を最大限に発揮できるように、関連する事務は「つどい」の管理団体に委託しています。



## 市民と協働によるまちづくりに向けて

市制施行60周年を機に、これまでのまちづくりの蓄積を踏まえて「地域力で未来を拓くまち」をコンセプトに記念事業を展開していきます。

また、60年のあゆみを振り返り、市民参加で記念事業を実施することで、本市が推し進めている市民と行政による協働のまちづくりをさらに拡大し、「元氣な八尾」として結実させ、市民の方々と行政が力を合わせるにより「一人ひとりの夢と元氣が未来をつむぐ都市・八尾」をめざしていきたいと考えています。

\*地域力＝市民どうして話し合いながら身近なまちの課題を解決していく力